

令和元年度（2019年度）「木育マイスター」育成研修 委託業務

業 務 実 施 報 告 書

も く じ

● 事業概要	2
● 事業スケジュール	3
● プログラムの作成	
プログラム作成	4
研修日程の設定	4
現地情報の収集	6
受講生の募集と選定方法	7
● 研修会の実施	
第1回	7
第2回	10
● OJTの実施	13
● フォローアップ研修会の実施	19
● まとめ	25
● 添付資料	27
①OJT 自己評価シート	
②アンケート集計	



●事業概要

当事業は、「木育」の理念を十分に理解し、民間における「木育」活動の企画立案や全体的なコーディネートができ、地域において指導的な役割を果たすことができる人材を育成することを目的に行うものである。

木育マイスター育成研修のカリキュラムは6つに分かれており、①木育の理念、②森づくりの仕事や樹木などの基礎知識、③暮らしと産業の関わり、④人の成長過程における木の存在や癒し効果、⑤木育プログラムにおける伝える技術、⑥木育プログラムの考え方と企画のやり方である。

空知地区および石狩地区を会場とし、1泊2日の講座を前半（9月上旬）と後半（10月下旬）の2回行った。OJTは、9月上旬から10月下旬に行った。

当カリキュラムを修了すると、「木育マイスター」として北海道に認定され、木育に関する活動機会には指導者として活躍することが期待されている。令和元年度の第10期生として23名の木育マイスターが誕生することとなる。

また、今年度からの取り組みとして、北海道が認定した「木育マイスター」の課題や悩みを解決し、今後の活動を後押しすることを目的としたフォローアップ研修を、胆振地区にて開催した。

フォローアップ研修では、木育活動の事例発表、木育活動のリフレッシュに向けた課題の共有、課題解決と新たな活動のための話題提供とアクティビティ体験、個別相談・指導などを実施し、全20名の参加者の今後の活動が円滑に進むようなアドバイスおよび問題点・改善点の指導を行った。

■本事業における業務

1. 木育マイスター育成研修

1) 受講者の募集

道内の木育の実践者や木育関連団体へ広報を行う。メディアリリースなどで広く一般からも参加者を募る。

2) 研修会の開催

「木育達人入門」をテキストとし、室内講義と実習においてテキスト内容を全て履修できるカリキュ



ラム設定を行う。

第1回目と第2回目の2回に分けて研修会を行う。

3) OJT研修の実施

室内講義や実習で習得した内容を実践するためのOJTを実施する。

2. 木育マイスターフォローアップ研修

1) 受講者の募集

木育マイスターメーリングリストから開催案内を送信するとともに、既認定者へチラシを郵送した。また、ホームページ、SNS等により周知を行う。

2) 研修会の開催

事前に受講生の課題や悩みについてヒアリングを実施。今後の活動に役立つ実践的な内容に加え、事例発表を盛り込んだカリキュラム設定を行う。



● 事業スケジュール

■ 事業スケジュール

講師陣の意見を聞き、前年までの講座の反省点を活かしてよりよい研修にするよう、カリキュラムの詳細を検討した。会場となる場所の下見と関係者との打ち合わせを綿密に行い、その地域の特徴を活用した研修プログラムづくりを行った。

6月下旬～7月中旬	講師陣と打合せ、研修日程、会場等決定、広報準備
7月16日	木育マイスター育成研修 受講生募集の広報開始
7月31日	木育マイスター育成研修 応募締切・選定
7月中旬～8月下旬	第1回講座関係団体・講師と打合せ、OJT受入れ団体との調整
9月1日-2日	第1回講座
9月上旬～10月中旬	第2回講座関係団体・講師と打合せ、OJT受入れ団体との調整
9月上旬～11月中旬	木育マイスターフォローアップ研修 関係団体・講師と打合せ、OJT受入れ団体との調整

9月4日	OJT第1回目実施
9月24日	木育マイスターフォローアップ研修 受講生募集開始
10月11日	木育マイスターフォローアップ研修 応募締切・選定
10月22日	OJT最終回実施
10月27日-28日	第2回講座
11月17日-18日	フォローアップ研修実施

●プログラムの作成

■プログラム作成

木育マイスター育成研修については、テキスト「木育達人入門」に基づき、プログラムはテキストの章立てに合わせ、第1章から第6章の内容を2日間×2回の全4日間と、OJTを一回以上受講することとした。当プログラムは、体験学習法を取り入れ、①まずはやってみる、②なぜそうなのかを考える、③次にどうするかを考えるという学びの循環過程を意識した。過年度研修のアンケート結果などを踏まえ、よりわかりやすく実践的なカリキュラムになるよう、講師や内容の検討を行い、プログラムを作成した。

木育マイスターフォローアップ研修については、北海道と当法人で打ち合わせを重ねながら事業の枠組みを作成のうえ、事前に受講生にヒアリングを実施し、関係各所との打ち合わせを密に行い、プログラムを作成した。

■研修日程の設定

野外でも活動しやすい、秋の季節に研修を行うこととし、日程を設定した。平日勤務の方も土日勤務の方も参加しやすいよう、日曜・月曜の研修とした。

◆第1回目 2019/9/1(日)～2(月)

【9/1】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:15～ 11:45	5章	体験学習の理解	宮本 英樹	体験から概念へと つなげていく学習法	1.5H	雨煙別 ココ・ コーラ 環境 ハウス
11:45～ 12:45		昼食・休憩				
12:45～ 13:45	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	田中 成明 西脇 宏伸	森林ボランティア レクリエーションの今	1H	
14:00～ 16:30	1章	木育の理念	煙山 泰子	木育の理念	2.5H	
16:30～ 18:30	4章	木と生きる ～人の成長と 木の関係～	宮本 英樹	子どもの発達の 特性と過程、 人を癒す木の働き	2H	

【9/2】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:15～ 12:15	3章	木と生きる ～くらしと産業～	堀川林業 飛騨産業	林業・木材産業の今	3H	堀川林業 飛騨産業
12:15～ 13:30		移動・昼食・休憩				北海道立 総合 研究機構 林業 試験場
13:30～ 15:00	2章	木とふれあい、 木に学ぶ	清水 一	北海道の主な樹種	1.5H	
15:00～ 16:30	2章	木とふれあい、 木に学ぶ	宮本 英樹	森林の定義 北海道の森林の特徴 木材の構造と性質	1.5H	
16:30～ 17:30	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	宮本 英樹	林業・木材産業の今	1H	

◆第2回目 2019/10/27(日)～28(月)

【10/27】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
13:00～ 15:00	5章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	伝える技術	2H	道民の森 神居尻 地区
15:00～ 17:00	2章	木とふれあい、 木に学ぶ	宮本 英樹 上田 融	林業体験—育林作業 林業体験—林産加工	2H	
17:00～ 18:00	5章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	伝える技術	1H	

【10/28】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 11:30	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	西川 栄明	生活の中の木、 木の道具	2.5H	道民の森 神居尻 地区
11:30～ 12:30	6章	木育はつながりのキーワード ～プログラムのつくり方～	宮本 英樹	プログラム作りの基礎	1H	
12:30～ 13:30		昼食・休憩				
13:30～ 17:00	6章	木育はつながりのキーワード ～プログラムのつくり方～	宮本 英樹	プログラム作りの 基礎、模擬演習	3.5H	

◆フォローアップ研修 2019/11/17(日)～18(月)

【11/17】

時間	カリキュラム	内容	時間	会場
13:30～ 14:00	白老での木育活動の発表	PoEMの活動内容について	1H	白老 ポロトの森
14:00～ 15:00	北海道の伝統的な暮らしと 森の関わりを学ぶガイドウォーク	ポロトの森構内のガイドウォーク	1H	
15:00～ 18:00	木育活動のリフレッシュに向けた 課題の共有	交流を通じ新たな気づきを 促すための事例紹介	3H	

【11/18】

時間	カリキュラム	内容	時間	会場
9:00～ 12:30	課題解決と新たな活動のヒント	①アクティビティ体験	3.5H	白老 ポロトの森
12:30～ 13:30	昼食・休憩		1H	
13:30～ 14:30	課題解決と新たな活動のヒント	②事例紹介・ 講師による話題提供と振り返り	1H	
14:30～ 15:30		③グループディスカッション	1H	
15:30～ 16:30	個別相談・指導、閉会		1H	

■現地情報の収集

現地情報の収集は弊社のネットワークのほか、木育ファミリーのネットワークや、平成22～30年度研修の受講生である木育マイスターに協力してもらい、行った。木育マイスター育成研修第1回の研修会場である栗山町、美唄市では地方独立行政法人北海道立総合研究機構林業試験場にご協力いただき、研修会場や周辺の森の下見、研修内容についての打合せを行った。第2回の研修会場である道民の森では、施設や周辺の森について下見、打合せを行い研修内容を決定した。また、木育マイスターフォローアップ研修の会場である白老町においては、現地関係者や木育マイスター等に協力いただき、研修会場や周辺の森について情報を共有し、研修内容についての打合せを行い、研修内容を決定した。

情報収集の際、現地の自然資源、文化資源、人的資源を把握し、研修会を実施する際の素材の整理と危険要因の有無を確認した。

■受講生の募集と選定方法

受講生の募集方法は、広く一般に公募した。北海道新聞へのメディアリリース、北海道と弊社のHPへの掲載、北海道内の木育関係施設への募集チラシの配布を行った。また、「わくわく木育通信」など木育関係者に対しての情報提供を行った。

木育マイスター育成研修については、平成29年度から、応募の際に「研修の受講目的及び自身の得意分野」についてのレポートの提出を実施しており、令和元年度も引き続き実施した。定員20名に対して40名の応募があったことから、急遽定員を増やし、抽選により23名の受講生を決定した。

木育マイスターフォローアップ研修については、定員20名に対して22名の応募があったことから、急遽定員を増やし、応募のあった22名全員を受講者とするよう決定した。1名が事前辞退、1名が当日欠席となり、20名での研修となった。

●研修会の実施

■第1回目 令和元年9月1日-9月2日

◆1日目(9/1) 栗山町 雨煙別コカ・コーラ環境ハウス 受講者数：23名

10:00 開会式

10:15 体験学習の理解

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

受講生が実際に講師の行うアイスブレイクを体験後、解説を通して、アイスブレイクの重要性、人にもものを伝えるための手法および「体験学習」の教育手法を学習した。

講師は解説時に、今回のアイスブレイクの意図について説明した後、参加者を飽きさせない体験学習を行うためには、参加者の不安を取り除くことと、フローラーニングを意識することが重要であることなどを説明した。



11:45 昼食 休憩

12:40 木と生きる ～暮らしと産業～

(NPO 法人雨煙別小学校 田中成明・西脇宏伸)

研修開催地である栗山町にて木育に携わる 2 名を講師として迎え、講演を行った。田中氏からは栗山町の自然環境教育について、西脇氏からは NPO 法人雨煙別小学校の取り組みについてご講演いただいた。

講演では、国蝶オオムラサキをシンボルとした森づくり、里山の定義や重要性およびハサンベツ地区における体験プログラム・プロジェクトなどが紹介された。



14:00 木育の理念 (KEM工房 煙山泰子)

木育の理念を理解することを目的に、木育や木育マスターの目指すものについて学んだ。

日本の森には様々な樹種があり、それらが材になった時の違いを、五感で感じる方法が紹介された。また、木で作られた様々な道具・おもちゃや、「木育の玉手箱」を使い、五感の重要性を体験することで、受講生は木育のイメージを広げた。

最後に、木のマグネットづくりを行い、針葉樹と広葉樹の違い、加工のしやすさ、しにくさなどを体感した。



16:30 木と生きる～人の成長と木の関係～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

講義形式で人の成長と木の関係について説明した。

子どもの成長には、子どもの「個性」と発達度合いに合わせた「課題」、「環境」の3つが重要であること、個に対して適した課題設定を行い、環境を整え子どもにとって「快」の状態を作ることが、成長の速度や深度に良い影響をもたらすことなどを解説しながら、木育マスターが持つ役割について学んだ。



18:30 終了

◆2日目(9/2) 美唄市 北海道立総合研究機構林業試験場 ほか 受講者数：23名

9:15 木と生きる～暮らしと産業～

(堀川林業株式会社)

森の木が木材になる過程を理解するために、三笠市の堀川林業株式会社で、切り出した丸太を板にしていく製材の現場を見学した。

堀川林業では製材に関する様々な説明のほか、造林の仕事や、北海道産広葉樹にこだわったフローリング板などの製造、また、ツリーイングなど森をソフト面で活用する活動も行っているという幅広い説明があった。



11:15 木と生きる～暮らしと産業～

(飛騨産業株式会社)

製材された材が、加工され、私たちの身の回りの道具になる過程を見学するため、三笠市の飛騨産業株式会社に向った。

はじめに企業・製品紹介の映像を見た後、工場見学を行った。工場見学では、木を曲げてイスの背などを作る、曲げの技術や、家具ができていく工程を見学した。見学後、ショールームにて様々な家具に触れ、家具産業の現在を学んだ。



12:30 移動 昼食 休憩

13:30 木とふれあい、木に学ぶ

(北海道立総合研究機構森林研究本部 清水一)

北海道の主要樹種の性質、針葉樹・広葉樹の違いなど、今後受講生が木育マイスターとして活動していくために必要な知識の基礎を学んだ。

また、北海道の各林業試験場、林産試験場の取り組みについて説明があり、様々な研究・開発がなされていることを知った。その後、林業試験場にある見本林、見本園、苗畑などを見学した。



15:00 木とふれあい、木に学ぶ

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

北海道の森林の特徴、天然林・人工林について学習のうえ、北海道の主要な樹木についてクイズ形式で出題し、回答発表・解説を行った。

その後、また、林業試験場にある見本林、見本園、苗畑の中に、説明した北海道の主要な樹木があるかフィールドワークを実施しながら、適宜解説を行った。



16:30 木と生きる～暮らしと産業～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

実験研修棟に戻り、丸太を加工して作られる各種木製品を紹介した。切断して作る、薄く剥いて作る、細かく砕いて作るなど、各種木製品はそれぞれが様々な作業により製造されることを学んだ。

また、「森の暮らし」、「農園の暮らし」、「牧場の暮らし」を展開している大沼流山牧場での活動内容にも触れ、木育と暮らし・産業の関連性について学習した。



■第2回目 令和元年 10月 27日-10月 28日

◆1日目 (10/27) 当別町 道民の森 神居尻地区 受講者数：23名

13:00 木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

プログラムを考える際に、その活動の趣旨を伝えるために、流れや伝え方についてアクティビティを実際に体験しながら学習した。アクティビティについては、屋外にて落ち葉や枝などを集めて高さ・長さを競うゲーム、アートの製作、袋の中身当てゲームなどを実施した。

受講者は各アクティビティが何を目的として提供されているのか、全体プログラムの流れはどのように考えられているかなど、プログラムを効果的に伝えるために必要なスキル等について身を以て学習していた。



13:00 木とふれあい、木に学ぶ、 木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹・上田融)

実際に自分たちで木に触れて、ものづくりすることの楽しさを学ぶため、木工体験を行なった。

生木を加工するグリーンウッドワークの手法で、バターナイフやスプーンを作り、すぐに試してみることで、森の木が道具になっていく過程を実感できた。

各受講者は自分で木を切り、削り、穴を空けるなど、ものを作ることによって、木に触ることやものづくりの楽しさ、達成感を、実体験として学ぶとともに、楽しさや達成感を伝えるために必要なものについて、自ら主体的に学習していた。



18:00 終了

◆2日目 (10/28) 当別町 道民の森 神居尻地区 受講者数：23名

9:00 木と生きる～暮らしと産業～

(ノンフィクションライター 西川栄明)

木育マイスターとはどのような存在かについて説明があり、マイスターとしての自覚を持つことや企画力の重要性について再認識した。

次に木育プログラムの企画立案のヒントとして色々な事例の紹介があった。その後、木材製品の歴史や特徴について理解することを目的に、木の道具、木の文化や習慣などの歴史的背景についてスライドを見ながら講義を受けた。

受講者は、昔から樹種の特徴による適材適所を考えながら人と木が共存してきた経緯を学んだ。



11:30 木育はつながりのキーワード ～プログラムの作り方～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

プログラムを作成する前段として、受講生一人一人のOJTの体験を全体で共有した。共通する重要なキーワードに着目したことで、個人の体験を踏まえた学びを促進し、午後からのプログラムに繋げた。

受講者からは、自分が主催者であった際には、こんな活動にしたい、気をつけていきたいなどの発言が見られた。



12:30 昼食

13:30 木育はつながりのキーワード～プログラムの作り方～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

これまでの講義での「体験活動」、ストーリー、ねらい、コンセプトなどを踏まえ、プログラムづくりの実践として、受講生自身がこれから取り組みたい企画を提案し、そのテーマについてグループワークにより4つのプログラムの企画・発表をした。

最後は各自の「木育宣言」をし、全4日間の研修のまとめとした。



17:30 終了

●OJTの実施

OJTは第1回研修と第2回研修の間に実施することで、その経験を、後半の第2回研修に活かせるようにした。道内全域（道央地域、道北地域、十勝地方、道東地域、道南地域）で計36個のOJTを設定し、そのうち15個のOJTに参加があった。OJT実施に当たっては、受け入れの担当者と調整を行い、研修生の学びに重点を置いたサポートを依頼した。

OJT当日は、プログラムの事前準備や打合せ、振り返りまで参加してもらい、イベントを運営するマネジメント手法や実際のプログラム手法、注意点などを体験的に学んだ。OJT終了後は、研修生に自己評価シートに自分の役割、評価・反省点、感想などを記入してもらうことで、OJTの内容を振り返り、今後の自身の活動に生かせるようにした。

番号	日程	講師	場所	内容	受講人数 (延べ人数)
1	9月25日	鈴木	森町立森小学校 (森町)	木育教室の他、古くなった学校机の天板を磨いたり・交換	1名
2	9月29日	道南・道央 木育マイスター 10名程度	大沼流山牧場 (七飯町)	道南最大の木育イベント、 様々な体験イベントを開催	4名
3	9月7日	札幌まるやま 自然学校	ふなば公園 (留萌市)	幼児親子向けプログラム「ふ なばようちえん」において、 子どもの野外遊び・素材遊び のサポート	1名
4	10月5日	札幌まるやま 自然学校	茨戸川緑地 (札幌市北区)	札幌市が主催の「木育バスツ アー」のサポート バスに添乗し現地へ行き、枝 打ち草刈り体験サポート、午 後はクラフト体験かネイチャ ーウォークなどを行う	1名
5	10月12日	札幌まるやま 自然学校	藻南公園 (札幌市南区)	公園主催の秋の子ども向けイ ベントにおいて、自然体験プ ログラム、焼き芋体験、クラ フト指導などを担当	1名
6	10月14日	札幌まるやま 自然学校	旭山記念公園 (札幌市中央区)	秋のフェスティバルにおい て、薪割りプログラムや森の 遊び場を担当	2名

7	9月8日	宮川多恵 (第6期)	開拓の村 (野幌森林公園)	森づくりの集い・開拓の村木のベンチ保護塗装体験	2名
8	10月20日	宮川多恵 (第6期)	創成川公園 (狸二条広場)	全国育樹祭関連木育イベント (ハロウィンワークショップ)	2名
9	9月17日 9月20日 9月25日 9月28日 10月16日	島田裕也	東川町キトウシ 森林公園	森のようちえん活動	5名
10	9月4日 10月2日	はぐくーむ スタッフ 日月(第1期)	帯広の森・ はぐくーむ	森の子広場(乳幼児親子を対象とした森の散策他)	5名
11	9月5日	はぐくーむ スタッフ 日月(第1期)	帯広の森・ はぐくーむ	小学校5年生自然体験(枝打ち、たき火、たき火パン)	1名
12	10月14日	はぐくーむ スタッフ 日月(第1期)	帯広の森・ はぐくーむ	はぐくーむ秋まつり(間伐、落ち葉プール、木工、馬搬など森に関する様々な体験をする一大イベント)	3名
13	10月19日	木育マイスター 道東支部	イオンモール 釧路昭和	「木育・森づくりフェア」に 木育広場出店	1名
14	10月22日	柴田真由子	霧多布湿原セン ター(浜中町)	バードコール作り	1名
15	10月19日	上田	苫東和みの森	月に1度は森づくり(定例) と全国植樹祭	1名

1. 9/25 (水) 9:00-14:30

講 師：(株) ハルキ 鈴木正樹
場 所：森町立森小学校
参 加 者：子ども（延べ）50名、大人20名
OJT 受 講 者：村上智彦
内 容：木育教室の他、古くなった学校机の天板を
磨いたり・交換



2. 9/29 (日) 8:30~17:30

講 師：木育マイスター 宮川、加藤、小熊、源
場 所：大沼流山牧場
参 加 者：子ども、大人ともに多数
OJT 受 講 者：満間笑歩、佐藤範幸、大竹将太、
藤木加奈子
内 容：道南最大の木育イベント、様々な体験イベ
ントを開催



3. 9/7 (土) 9:00~15:00

講 師：札幌まるやま自然学校
木育マイスター 高野克也
場 所：ふなば公園 (留萌市)
参 加 者：子ども6名、大人3名
OJT 受 講 者：大竹将太
内 容：幼児親子向けプログラム
子どもの野外遊び・素材遊びのサポート



4. 10/5 (土) 8:30~15:30

講 師：札幌まるやま自然学校
木育マイスター 高野克也
場 所：茨戸川緑地
参 加 者：子ども5名、大人5名
OJT 受 講 者：神山彩乃
内 容：バスに添乗し現地へ行き、枝払い間伐作業の
サポート、工作体験やネイチャーウォッチン
グなどを行う



5. 10/12 (土) 8:30~12:30

講 師：札幌まるやま自然学校
木育マイスター 高野克也

場 所：藻南公園

参 加 者：子ども 20 名、大人 10 名

0JT 受 講 者：妻鳥洋年

内 容：公園主催の秋の子ども向けイベントにおいて、自然体験プログラム、焼き芋体験、クラフト指導などを担当



6. 10/14 (月) 9:00~15:00

講 師：札幌まるやま自然学校
木育マイスター 高野克也

場 所：旭山記念公園

参 加 者：子ども 39 人、大人 57 人

0JT 受 講 者：中村桃子、飯田淳子

内 容：秋のフェスティバルにおいて、薪割りプログラムや森の遊び場を担当



7. 9/8 (日) 10:00~15:00

講 師：木育マイスター 宮川多恵

場 所：開拓の村

参 加 者：子ども 6 名、大人 4 名

0JT 受 講 者：佐藤範幸、神谷純司

内 容：森づくりの集い・開拓の村木のベンチ保護塗装体験



8. 10/20 (日) 9:30~17:00

講 師：木育マイスター 宮川多恵

場 所：創成川公園

参 加 者：自由参加（人数制限なし）

0JT 受 講 者：菅原祥子、佐藤範幸

内 容：全国育樹祭関連木育イベント（ハロウィンワークショップ）



9. 9/17 (火) 9:00~15:00
 9/20 (金) 9:15~15:00
 9/28 (土) 9:00~15:00
 9/30 (月) 9:00~15:00
 10/16(水) 9:00~15:00

講 師：木育マイスター 島田裕也

場 所：東川キトウシ森林公園

- 参 加 者：9/17 (火)：子ども 8名、大人 6名
 9/20 (金)：子ども 9名
 9/28 (土)：子ども 4名、大人 2名
 9/30 (月)：子ども 6名、大人 4名
 10/16 (水)：子ども 9名、大人 4名

0JT 受 講 者：菅原祥子 (9/17)、長崎結美 (9/20)、中井裕之 (9/28)、
 佐藤優介 (9/30)、飯田淳子 (10/16)

内 容：森のようちえん活動



10. 9/4 (水) 10:00~11:30
 10/2 (水) 10:00~12:00

講 師：帯広の森・はぐくーむ
 木育マイスター 日月伸、大石拓人

場 所：帯広の森・はぐくーむ

- 参 加 者：9/4(水)：子ども 2名、大人 2名
 10/2(水)：子ども 4名、大人 5名

0JT 受 講 者：渡辺翔 (9/4)、中野久美 (10/2)、中野正睦 (10/2)
 松田明仁 (10/2)、松田麻子 (10/2)

内 容：森の子広場 (乳幼児親子を対象とした森の散策他)



11. 9/5 (木) 9:00~11:50

講 師：帯広の森・はぐくーむ
 木育マイスター 日月伸、大石拓人

場 所：帯広の森・はぐくーむ

- 参 加 者：子ども 51名、大人 (引率) 4名

0JT 受 講 者：渡辺翔

内 容：小学校 5年生自然体験
 (枝打ち、たき火、たき火パン)



12. 10/14 (月) 10:00~15:00

講師：帯広の森・はぐくーむ

木育マイスター 日月伸

場所：帯広の森・はぐくーむ

参加者：子ども、大人ともに多数

OJT 受講者：佐々木昭彦、大村竜二、奈良真紀子

内容：はぐくーむ秋まつり

(間伐、落ち葉プール、木工、馬搬など森に関する様々な体験をする一大イベント)



13. 10/19 (土) 10:00~16:00

講師：木育マイスター道東支部

場所：イオンモール釧路昭和

参加者：多数

OJT 受講者：能登淳子

内容：「木育・森づくりフェア」に木育広場出店



14. 10/22 (火) 11:45~17:00

講師：木育マイスター 柴田真由子

場所：霧多布湿原センター

参加者：高校生8名

OJT 受講者：能登淳子

内容：針葉樹の水蒸気蒸留体験



15. 10/19 (土) 9:00~17:00

講師：NPO 法人いぶり自然学校

木育マイスター 八木一馬

場所：苫東・和みの森

参加者：子ども10名以上、大人30名以上

OJT 受講者：神谷純司

内容：月に1度は森づくり(定例)と全国植樹祭



■フォローアップ研修 令和元年 11 月 17 日-11 月 18 日

◆1 日目 (11/17) ポロトの森ビジターセンター 受講者数：20 名

13:00 開会式



13:30 白老での木育活動の発表

(木育マイスター9期 手塚日南人)

木育マイスター9期である、白老町地域おこし協力隊の手塚日南人氏に、白老での木育活動について発表いただいた。

手塚氏からは、ポロトの森エコミュージアム推進協議会、通称 PoEM の理念、活動内容の紹介等があった。



14:00 北海道の伝統的な暮らしと森の関わりを学ぶガイドウォーク

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

北海道の伝統的な暮らしと森の関わりを学ぶため、ポロトの森にてガイドウォークを実施した。ポロトの森ビジターセンターを出発地点とし、道中説明や体験を挟みながら、再びポロトの森ビジターセンターに戻るようコース取りをした。



各参加者は、森に入る前にアイヌが行う儀式的作法を習った後、アイヌ文化や開拓から繋がる木の利用方法や共に生きるための精神性など、講師の説明を道中興味深く聴講しつつ、北海道らしい森とその活用法を学んだ。



15:00 木育活動のリフレッシュに向けた課題の共有

～交流を通じ新たな気づきを促すための事例紹介～

各受講生に新たな気づきを促すことを目的として、事例紹介を実施した。

1. 企業とのコラボレーションについて

(北海道水産林務部森林環境局長 鈴木道和)

北海道の木育について、また、木育マイスターを育成する理由などをご説明いただいた後、民間企業との連携・協働事例を紹介いただいた。



2. 塗装で木育

(木育マイスター6期 宮川多恵)

塗料メーカー「和信化学工業株式会社」に所属する宮川氏に、木育マイスターとなった経緯や、「北海道の色」を意識した環境対応型水性塗料および塗料を活かした木育活動についてご紹介いただいた。



3. 木育×音楽プロジェクトについて

(帯广大谷短期大学講師 長崎結美)

「地域の木材をアートに」をテーマとし、木育と音楽を融合させた活動展開や音楽を木育に取り入れるメリットについてご紹介いただいた。



4. アカエゾマツの蒸留などについて

(木育マイスター6期 酒巻美子)

酒巻氏が木育マイスターとなった経緯や、所属するアカエゾマツの有効活用の検討、製品化を行っている「一般社団法人 Pine Grace」の目的や活動内容について紹介をいただいた。



5. 木育マイスター道東支部の活動について

(木育マイスター1期 萩原寛暢)

自身の経歴や、主に釧路・根室地域の木育マイスターおよび関係者が積極的な連携を図り、木育の普及に取り組むことを目的として設立された「木育マイスター道東支部」についてご説明いただいた。



18:00 終了

◆2日目 (11/18) ポロトの森ビジターセンター 受講者数：19名

9:00 課題解決と新たなる活動のヒント アクティビティ体験

課題解決と新たなる活動のヒントを得るために、各受講生が様々なアクティビティを体験した。

1. 炙り屋

(北海道観光まちづくりセンター 上田融 ほか)

トライポッドに鹿足を吊り下げ、焚火を囲んでマシュマロチョコバナナや自家製のパンなどを調理・提供した。体験プログラムを企画実施する上で、場のしつらえの重要性を学んだ。



2. 削り屋

(木育マイスター4期 長多邦裕 ほか)

テントを設営し、薪割りや、削り馬、モーラナイフ等で木工がきるスペースを用意した。長多氏や原氏から、モーラナイフの使い方、力の入れ方などを教わり、各自木のスプーンなどを製作した。



3. 森のリトリート

(木育マイスター9期 手塚日南人)

ポロトの森の奥に移動し、川辺にて約10分間の瞑想を行った。各受講者は手塚氏のレクチャーを受けた後、思い思いの場所・姿勢にて、呼吸を意識しながら瞑想を行った。その後、各受講者は瞑想中に浮かんだ詩や言葉を拾った落ち葉等書き留めながら、ポロトの森ビジターセンター裏に戻った。



4. 木育と馬搬

(木育マイスター9期 八木一馬 ほか)

馬種や、馬が資材を運ぶ「馬搬」について説明を行った後、荷台に受講生を乗せて、ポロトの森内の散策を行った。



5. メープルシロップ採取の器具説明等

(北海道観光まちづくりセンター 上田融)

受講生に対し、メープルシロップを採取するための器具および採取の方法や注意事項などについて説明を実施した。



6. 木のキーホルダーの作成

(木育マイスター6期 宮川多恵)

室内にて、宮川氏が用意したパーツ、紐、塗料を用いた木のキーホルダーの作成を行った。

レーザーにより切り出された木に、10種類の中から好きな色の塗料を使い、木に色をつけ、接着剤でとめて紐をつけ、完成となった。随時、塗料に関する説明もあり、受講者は夢中で製作に取り組んでいた。



7. 葉っぱのフロッタージュ

(KEM 工房 煙山泰子)

葉っぱの上に紙を置き、クレヨンで擦りイラストする「フロッタージュ」を体験した。

各受講生は、葉っぱの状態やクレヨンの色使いにより、全く雰囲気が変わったイラストが作成されることを実際に体感しながら学んでいた。



8. ウッドブロック作り

(帯广大谷短期大学講師 長崎結美)

長さ約20cmのシラカンバにスリットを入れ、ウッドブロックを作成した。

事前に作業方法や、木の出所などについて説明があった後、各受講生が鋸を手作業で行い、スリットの入れ方による音の違いを楽しんだ。



10. ドラムサークルによる音楽会

(木育マイスター4期 長多邦裕)

9. ウッドブロック作りで作成したウッドブロックや、講師が持ち込んだ打楽器等により、演奏を行った。各受講生は、講師の指揮により、様々なリズムや強弱の音を奏でていた。



12:00 昼食

13:00 課題解決と新たな活動のヒント 事例紹介・講師による話題提供と振り返り

(ノンフィクションライター 西川栄明、

北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

西川講師より、「木の文化フォーラム」の至近の講師やテーマおよび読んでおくべき本などについて紹介があった。また、取り組み事例として西川講師が「大人の遠足」シリーズを紹介し、深く関係のある受講生より概要紹介があった。



その後、宮本講師より、研修期間中を通して各受講生および講師がブレインストーミングしていた「木育のトレンド」および「活動を前に進めるためのヒント・キーワード」について全員から頂いたキーワードや、キーワードに対する補足説明等をいただいた。



最後に、事前に受講生から挙がっていた悩み・相談について回答・質疑応答等を行った。

13:30 課題解決と新たな活動のヒント グループディスカッション

本研修で学んだことを踏まえたうえで、グループディスカッションを通し、今後の木育マイスターの方向性や森づくりについて検討・協議した。

受講生からは、木育マイスターの支部活動の活性化や、地域毎のみだけでなく部会毎の木育マイスター支部の創設、各産業と連携した木育の森づくり、アイヌ文化をよりリアルに体験できる森など、様々な提言があった。



15:00 個別相談・指導

研修内容の中でより深く知識を得たいことや日頃抱えている悩みや疑問について、個別に相談・指導を行った。



16:00 修了式



●まとめ

・受講人数について

令和元年度木育マイスター育成研修は、定員 20 名のところ、2 倍の 40 名の申し込みがあったため、急遽定員を増やし、抽選で 23 名に絞り受講者を決定した。23 名が全てのカリキュラムに参加し、全受講生が研修カリキュラムを修了した。

令和元年度木育マイスターフォローアップ研修については、定員 20 名のところ、22 名の申し込みがあったため、急遽定員を増やし、22 名全員を受講者にすることを決定した。1 名が事前辞退、1 名が当日に欠席となり、また、研修 2 日目に 1 名がやむを得ず欠席となったため、19 名の受講者が全てのカリキュラムに参加となった。

・会場について

令和元年度木育マイスター育成研修について、今年度は札幌近郊の美唄市、当別町で実施した。全道各地から参加しやすいよう、道央地域での開催としたが、道民の森神居尻地区は札幌からさらに遠いため、遠方の受講生からは特に、会場が遠かったとの声が多くあがった。次回は、より遠方からも来やすい会場を選定する必要があると思われる。

令和元年度木育マイスターフォローアップ研修について、開催初年度となった今年度は白老町にて実施した。会場の環境・施設に関しては高評価であったが、立地に関してはもっとアクセスしやすい会場を希望する声もあった。

・研修時期について

木育マイスター育成研修は、秋（第 1 回目が 9 月、第 2 回目が 10 月）に実施した。OJT は 1 回目と 2 回目の間（9 月上旬～10 月下旬）に行い、OJT で経験したことを第 2 回目研修で活かせるようにしたことで、第 2 回目研修の際に受講生の理解がより深まったと思われる。フォローアップ研修は、OJT との日程が重ならないように育成研修終了後に実施したため 11 月開催となった。一部から「寒い」「移動中吹雪であった」など、初冬開催を避ける声も聞こえた。

・カリキュラム・スケジュールについて

研修終了後に受講生から取ったアンケートによると、カリキュラムについては概ね満足を得られている。講座の時間もちょうどいいと答えている方が多く見受けられた。一方で研修の開始時間、終了時間の指摘も少ないが見受けられ、スケジュールについては公共交通機関との時間調整も考慮したい。

・今後の木育について

木育マイスター育成研修は平成 22 年度から実施されているが、平成 22 年度～30 年度の 9 期で合計 247 名の木育マイスターが誕生した。今年度、新たに 23 名のマイスターが加わり、合計 270 名となる。

木育マイスター 1～9 期生は、木育マイスターメーリングリスト内で情報交換、意見交換などを行い、交流が進んでいる。また、今年度研修の OJT の受入先となってもらい、各人の地域・会社などで木育プログラムを行ったり、各地域のマイスターが集まって木育フェスタを実施したりと、それぞれの地域・

立場で活躍中である。今年度の10期生も先輩マイスターに続き、活躍が期待される。

今年度の木育マイスター育成研修では、例年同様定員の2倍程度の申し込みがあり、この研修の受講希望者はまだまだいると思われる。また、応募の際のレポートには皆木育にかける思い、やりたいことが記載されていた。

また、今年度より、北海道が認定した「木育マイスター」を対象としたフォローアップ研修を開催した。募集の結果22名を受講生として案内し、19名が全カリキュラムを修了したが、各参加者とも、今後の木育マイスターとしての活動を円滑に進めるために、精力的に研修を受講していた姿が印象的であった。また、マイスター同士の交流も深まり、同期以外のマイスターとも活動を共にしていけるネットワークが構築されたと思われる。

最後に、今後も北海道の木育の普及を推進していくためには、この10年間の研修で誕生した木育マイスター同士のネットワークをより強固なものとし、協力しあって木育の普及に取り組んでいくことが必要である。北海道の木育を進めていくためにも、本研修は継続して行われる必要があり、より多くの方に機会と場を提供されるべきと考える。

以 上